

ジオン注(痔核硬化療法)

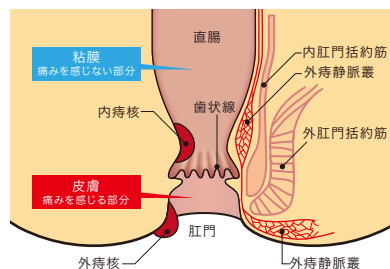
内痔核を切らずに治します。

ジオン注(痔核硬化療法)とは、「ジオン注」という注射剤で、脱出を伴う内痔核(排便時に出てくる、あるいは普段から出たままになっているようないぼ痔)に対して、注射による治療を可能にしたものです。ジオン注の有効成分は硫酸アルミニウムカリウムとタンニン酸というものです。

- 硫酸アルミニウムカリウム・・・出血症状や脱出症状を改善する
- タンニン酸・・・硫酸アルミニウムカリウムの働きを調節する

◆内痔核とは

肛門の粘膜の下には、血管が集まって肛門を閉じる働きをするクッションのような部分があります。肛門への負担が重くなると、クッションを支える組織(支持組織)が引き



伸ばされて、クッション部分が大きくなり、出血したり肛門の外に出たりするようになります。これが痔核(いぼ痔)です。

痔核には、直腸側にできる内痔核と、肛門側にできる外痔核があります。また、内痔核が大きくなって脱出するようになると肛門側の痔核、つまり外痔核を伴って内外痔核という状態になることもあります。

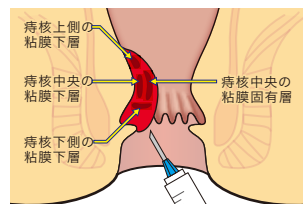
◆ジオン注による治療法

「脱出を伴う内痔核」にジオン注を投与して痔に流れ込む血液の量を減らし、痔を硬くして粘膜に固着・固定させる治療法です。痔核を切り取る手術と違って、痔核の痛みを感じない部分に注射をするので「傷口から出血する」「傷口が傷む」というようなことはなく、入院期間の短縮も期待できます。

◆ジオン注の投与方法

当院では、無痛化剤付きのジオン注を投与するため麻酔の必要がありません。そのため日帰りでの治療が可能です。

ジオン注はひとつの痔核に対して図のように4ヶ所に分割して投与します。これは、痔核に薬液を十分に浸透させるための方法で、四段階注射法といいます。複数の痔核がある場合には、それぞれに投与します。

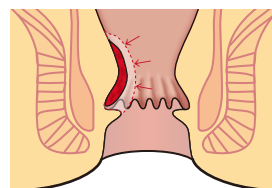
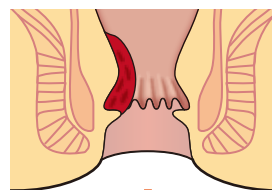


◆ジオン注の投与後

投与後の早い時期に痔核に流れ込む血液の量が減り血液が止まります。脱出の程度も軽くなります。投与した部分が次第に小さくなり、引き伸ばされていた支持組織が元の位置に固着・固定して、脱出がみられなくなります。

(1週間から1ヶ月)

出血がみられなくなり、脱出や肛門のまわりの腫れがなくなります。



— よくあるご質問 —

■排便はいつから？

- ・排便は翌日から可能です。
- ・痛みをこわがって我慢しないようにしましょう。

■仕事復帰は？

- ・数日間はできるだけ安静にしましょう。
- ・「力仕事」「冷え」「長時間の同じ姿勢」を避けましょう。

■通院は？

- ・手術と同じくらいのケアが必要です。
- ・副作用が起きることもありますので、定期的に通院してください。

◆副作用について

副作用の報告例として、血圧低下、下腹部痛、嘔気(気持ちが悪い、胃のあたりがムカムカする)、肛門部の違和感、排便困難、痛み、出血、一過性にあらわれる発熱などがあります。

<お問い合わせ>

医療法人芙蓉会 南草津病院

TEL.077-562-0724



<来院時の注意点について>

帰宅時の患部保護のため、
自転車およびバイクでの来院はお断りしています。